

事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人チーム東松山
活動名	能登半島地震・豪雨災害復興支援プロジェクト
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 豊かさ分野
事業の目的	
能登半島地震から一年が経過し、9月の奥能登豪雨災害も甚大な被害をもたらしたなかで、「災害の風化」を防ぎ、復旧・復興に取り組む能登の人々の現状や課題を埼玉の知にて周知し、復活しつつある事業者の商品や特産品を「チャリティマルシェ」というコンセプトのイベントで販売・紹介し、能登の食材の魅力を幅広く県民に伝え、事業者を応援する雰囲気醸成することを目的とした。また、東日本大震災から15年が経過することを踏まえ、大災害からどのように復旧・復興したか、珠洲市でもその報告を行った宮城県東松島市の集団移転地区の住民からその歩みを学び共有することとした。	
令和元年東日本台風で被災した東松山市において、水害に遭われた地区住民とともに防災活動を行うとともに、東松山市社会福祉協議会と協働による「災害ボランティア養成講座」等を開催し、災害にも対応できるボランティア人材・ボランティアチームの養成に取り組んだ。	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
大地震と豪雨災害に見舞われた奥能登は、人口減少、過疎高齢化の激しい地域でもあり、その地にて発生した「災害」がどのような被害をもたらしたのか、また、「被災地」の現状はどうなっており、復旧・復興に向けた課題はどうなっているのか、マスコミの報道も減るなか「災害の風化」が進んでいる。毎月、能登半島での災害ボランティア活動を行いながら、活動報告・現状報告を行い、復活をめざす事業者の特産品や商品を「チャリティマルシェ」にて販売することで、イベントを開催した地域において「災害の風化」を防ぐことができると考えた。また、東日本大震災から15年が経過し、やはり日常生活のなかで「防災」「減災」という意識も退潮しつつあるなか、東松山市と友好都市となった宮城県東松島市の住民との交流会を開催したり、河川水位の上昇から避難行動を考えるという手法で事前防災に取り組むなど、様々な手法で「防災・減災意識の風化」にも悼さず課題があった。2024年度の能登半島地震緊急支援プロジェクトを踏まえて、災害にも対応できるボランティアの育成とボランティアチームの養成も課題として痛感していた。	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
①能登応援チャリティイベント開催 ウエスタ川越のSDGsアクションフェスタ、東松山市産業祭・商工祭、東松山市内事業者の記念イベント等での開催	
②映画「凧が灯るとき」自主上映会の開催、珠洲市の写真家・松田咲香さん写真展の開催	
③災害ボランティア養成講座(12月)と災害ボランティアチーム養成講座(1月)の開催	
④東日本大震災の復興から学ぶ講演会開催(10月)	
⑤水害から生命を守る地域防災活動の開催(8月講座・9月防災まち歩き)	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
①能登応援チャリティイベント ウエスタ川越のSDGsアクションフェスタでは寄付者のJSA中核会の会員様約30名も参加し盛況だった。東松山市内で開催した産業祭・高坂商工祭、BOSCH株式会社イベント等の大きな会場では4回開催し、延べ600人の来場者に対して能登の特産品や復活した事業者の新商品など販売できた。スタッフ10名	
②映画「凧が灯るとき」自主上映会には、150名を超える参加者があり、松田咲香さん写真展には100名を超える参加者があった。スタッフ16名	
③災害ボランティア養成講座は18名の参加者、災害ボランティア愛・知・人の赤池博美さん講演会には30名の参加者があった。スタッフ4名	
④東日本大震災の復興から学ぶ講演会には、20名の参加者。スタッフ4名	
⑤水害から生命を守る地域防災活動には、52名の地域住民の参加者があった。スタッフ2名	

費用面での工夫
<p>埼玉県内での活動については、今回の助成金の範囲ないで告知や会場費用等を賄うことができた。物産販売については、事業者から販売価格で商品を購入して同額にて販売したので収支はゼロとなった。写真展開催後、松田咲香さんへの活動支援金として募金活動を2カ所で行い、合計16682円の支援金を松田さんに送ることが出来た。チラシ印刷は能登チャリティイベントや映画上映会・写真展、災害ボランティア養成講座の集客のために助成金から支出することができ、集客に繋がった。</p>
地域社会への還元
<p>能登応援チャリティイベントや映画・写真展などを通じて、能登半島地震や豪雨災害の現状と課題を広く県民に伝えることができた。また、能登の魅力や事業者の取組などを開発した商品の紹介・販売で伝えることができた。</p> <p>能登での災害ボランティア活動が収束するなか、県内で災害ボランティア養成のための講座を開催し、また防災庁創設をにらんだ埼玉県災害ボランティア活動連絡会「彩の国会議」にも積極的に参加し、今後予想される首都直下型地震への事前防災のための体制整備にも協力できた。</p> <p>東日本大震災から15年が経過した報告会では、令和元年東日本台風の被災者との市民交流も促進でき、東松山市の被災者の減災に向けた取り組みにも貢献できた。</p>
今後どのように事業を継続し発展させるか
<p>能登半島地震・豪雨災害復興支援プロジェクトは、3年目の2026年も継続するが、「被災者」の多くが仮設住宅やみなし仮設住宅に生活の拠点をうつすなかで、生活再建支援に向けた取り組みをどう進めるか、現地ニーズを的確に把握したのちに活動方針や事業内容を検討したい。また能登での活動と並行して、能登応援チャリティイベントや災害ボランティアの育成、災害にも対応できるボランティアチームの養成は、今年度培ったネットワークを活用して「行政・社協・NPO」の三者連携を通じて促進していきたい。</p>

事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人チーム東松山

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	91,460	223,122	131,662	
活動実施による収入等	75,000	71,500	△ 3,500	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	666,460	794,622	128,162	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	60,550	49,350	△ 11,200	
通信運搬費	15,000	13,800	△ 1,200	
旅費交通費	173,000	208,650	35,650	
消耗品費	30,000	44,499	14,499	
備品費		0	0	
委託費	167,910	208,323	40,413	
謝金	120,000	170,000	50,000	
人件費		0	0	
その他	100,000	100,000	0	
支出の部 合計	666,460	794,622	128,162	